会議録

会議の名称	第4回子ども子育て審議会西東京市公立保育園あり方検討専門部会
開催日時	令和6年11月1日（金曜日）午後5時40分から午後7時30分まで
開催場所	イングビル3階会議室
出席者	委員：普光院部会長、井上委員、笹本委員、武田委員 事務局：遠藤子育て支援部長、菱川子育て支援課長、齋藤幼児教育・保育課長、宮崎子ども家庭支援センター長、小関幼児教育・保育課長補佐、岡田子ども家庭支援センター長補佐、中村幼児教育・保育課主幹、今井幼児教育・保育課主幹、阪本幼児教育・保育課事業調整係長、菅原幼児教育・保育課給付係長、石塚幼児教育・保育課相談受付係長、浅野幼児教育・保育課事業調整係主任、糸川幼児教育・保育課事業調整係主任 欠席者：中村委員
議題	1 審議 (1) 西東京市公立保育園のあり方について (2) 西東京市公立保育園あり方検討専門部会最終報告について
会議資料の名称	資料1 西東京市公立保育園あり方検討専門部会まとめ（案） 資料2 西東京市公立保育園あり方検討専門部会最終報告（案）
記録方法	☐ 全文記録 ☒ 発言者の発言内容ごとの要点記録 ☐ 会議内容の要点記録
会議内容	
<p>1 審議</p> <p>(1) 西東京市公立保育園のあり方について</p> <p>○普光院部会長 西東京市公立保育園のあり方について、事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>○事務局 (資料1に沿って説明)</p> <p>○普光院部会長 ただいま事務局から説明があった内容について、皆様からご意見・ご質問をいただきたいと思うが、内容はもちろんのこと、文章の書き方や言い回しなどについても、本部会の検討結果としてふさわしいものとなるよう委員の皆様にご意見をいただきたい。それでは、まず、「はじめに」の部分についてご意見等はあるか。</p> <p>○委員 特になし。</p> <p>○普光院部会長 ないようなので、引き続き事務局より説明をお願いしたい。</p> <p>○事務局 (資料1に沿って説明)</p>	

○普光院部会長

「2 公設公営保育園が存在する意義」（1）公設公営保育園の特性及び（2）公設公営保育園の役割についてご意見等はあるか。

○委員

特になし。

○普光院部会長

ないようなので、引き続き事務局より説明をお願いしたい。

○事務局

（資料1に沿って説明）

○普光院部会長

「2 公設公営保育園が存在する意義」（3）公設公営保育園の役割の具体的なイメージ及びコラムについてご意見等はあるか。

○武田委員

資料1の6ページ真ん中、「今後追加で求められる支援」のところで、言っていることはその通りだが、言葉が重なっているように感じる。「顔の見える関係」という言葉が3回出てくるため、表現を少し変えた方がよいと思う。

○普光院部会長

〔人と人をつなぐ〕の箇所は、例えば、「直接出会うことにより」などの表現にすることができるか。

○武田委員

「出会いを大切にし」という表現はどうか。

○笹本委員

よいと思う。

○普光院部会長

では、ここは「顔の見える関係を大切にし」を「出会いを大切にし」という表現に変える。次の〔かかりつけ保育園〕のところだが、これはなくてもよいのではないか。このかかりつけ保育園がどのように構築されていく予定かはまだ分からないが、入口としては母子手帳の案内などで始まるのかと思う。そのため、顔の見える関係とは言い難いかもしれない。

○武田委員

「西東京市子ども家庭センターと連携し」から始っても問題ないのではないか。

○普光院部会長

では、ここは、「顔の見える関係を築きながら」の部分を削除する。また、8ページだが、(ウ)が「民営幼児教育・保育施設」となっているため、タイトル部分も合わせた方がよい。それから、(ア)が「配置し」とあるが、「ネットワークの構築・強化およびその支援」と体言止めになっており、文章的に違和感がある。中学校通学区域でネットワークを構築するということはとても大事な方向性であり、基幹型保育園を中学校通学区域に1か所配置するという方針が新しく出てきた中での記載となる。内容的にはよいので、6ページなどと同様に文末を全て「行う」とした方がよいのではないかと。もう一点、自分をお願いをして(ウ)を削除してもらったのだが、そのために「民営保育施設への相談対応」という要素が抜けてしまったかもしれない。実情として民間施設から相談が来ることがあるのかは分からないが、もし、その要素を入れるのであれば、(エ)に、「施設からの相談」という文言を入れるとよいと思う。

○笹本委員

民間施設からの相談は、現実的に多くある。

○普光院部会長

そういうことであれば(エ)に入れる方がよい。また、笹本委員にはコラムを書いてもらい感謝している。とてもすっきりしていて分かりやすい。

○武田委員

コラムの部分だが、先ほどの「顔の見える関係」と同じように、「つながることもあります」という言葉が重複している。どちらかを変えた方がよいのではないかと。

○普光院部会長

下の文章を、「利用のきっかけになることもあります」としてはどうか。

○武田委員

「利用されることもあります」ではどうか。

○普光院部会長

「利用されることもあります」に修正する。また、5ページの(ウ)の部分だが、文章を修正したことにより、つながりが悪くなってしまったように感じる。「重要である」以降を、「それにより、地域の施設として、子どもや家庭を幅広く包摂することが可能となり、また、児童発達支援施策としては、個別の支援ニーズを保障した上で、地域の子どもたちと育ち合う環境を提供することができる」とした方がよいと思う。他にはいかがか。

○委員

特になし。

○普光院部会長

ないようなので、次に進みたい。

○事務局

(資料1に沿って説明)

○普光院部会長

「3 公立保育園の民設民営化」についてご意見等はあるか。

○委員

特になし。

○普光院部会長

ないようなので、次に進みたいと思う。事務局より説明をお願いしたい。

○事務局

(資料1に沿って説明)

○普光院部会長

「4 今後の公立園の方向性について」に対してご意見等はあるか。11ページの(1)体制・区域について、「配慮を必要とする児童の受入れ体制を確保し、民営保育施設での受入れを支援する」となっているが、点線内が「民営幼児教育・保育施設」となっているため合わせた方がよい。それから、点線内の文章について、一点目で配慮を必要とする児童を公設公営保育園が積極的に受入れていくことが書かれており、二点目でインクルーシブ教育の趣旨を汲んだ対応を行って、それを民営幼児教育・保育施設においても受入れられるよう支援を図っていくということが書かれているのだと思うが、現在の文章ではそのように読み取れない。恐らく、二点目の先頭にあった「適切な受入体制を確保するとともに」という文言が消えたためかと思う。出だしの「児童の受入れにあたっては」のところの「児童」を削ることで意味が通りやすくなるのではないか。

○井上委員

削除された「適切な受入体制を確保するとともに」を先頭に持ってくるかどうか。

○普光院部会長

一点目の結びが「積極的に受入れ体制を確保すること」となっており、それが重複していたために消したのだと思う。そのため、一点目を「積極的に受入れ体制を確保すること」で結び、二点目は余計な言葉を入れずに「受入れにあたっては」で始まって良いように感じる。

○笹本委員

現在の文章だと、ここだけ公設公営保育園がやらない項目になってしまっているように見えてしまうということか。

○普光院部会長

その通りである。二点目の出だしの「児童の受入れにあたっては」の部分は「児童」

を削るということによろしいか。

○委員

異議なし。

○普光院部会長

同点線内の三点目について、「保育園等への入園にあたっては」とあるが、これは誰が主語になっているのか。公設公営保育園が事前相談を受けるということか。

○笹本委員

事前相談を受けるのは役所の窓口だと自分は思って読んでいた。日頃の相談の一つとして、地域子育て支援センターでも入園相談を受けることはあるが、この項目だけは役所の窓口をイメージしていた。

○普光院部会長

この項目は、「公設公営保育園の方向性について」であるため、公設公営保育園が暗黙の主語になっている。そのため、ここだけ、主語が役所の窓口となってしまうのはおかしい。

○笹本委員

役所の窓口で相談があった際に、このような児童は受けられるのかといった具体的な相談を園で受けることはある。

○普光院部会長

そうすると、これは幼児教育・保育課の仕事ということになるか。

○事務局

民営保育園分も含め、公設公営保育園の看護師が入園申請書類を事前に確認し、必要に応じて医師から保育園でどういった配慮が必要かなどのご意見を頂戴している。それを踏まえて、幼児教育・保育課の方で園の運営上どういった取り決めが必要かなどを相談・検討している。

○笹本委員

基本的には、医療的ケアの必要性がある児童やそれに至る可能性がある児童を確認している。障害が重くて医療的ケアが必要となれば確認をするが、障害のある児童については、確認はしていない。

○普光院部会長

そうすると、出だしのところは、「医療的ケア児等の入園にあたっては、公設公営保育園が事前に相談を受けて」のような形になるか。

○笹本委員

幼児教育・保育課の方に入園申請があつてからの確認となるので、どこまでを事前と

見るのかによって変わるかと思う。

○普光院部会長

事前とは言えないということか。

○事務局

入園の前段階で、確認をした看護師から保護者に連絡して状況を聞いたりしているため、事前という認識で問題ないと考えている。

○井上委員

入園が決定する前ということか。

○武田委員

前である。

○普光院部会長

申請よりも前か。

○笹本委員

申請よりは後になる。申請の時に窓口で相談をされる方もいるし、書類上で分かる場合もある。

○普光院部会長

公設公営保育園が全てを取り仕切っているわけではなく、民営の保育園も事前相談を受けることはあるということか。

○笹本委員

各保育園は入園が決まりそうな段階で知ることになる。まず、その手前の入園申請が済んだ段階で公設公営保育園の看護師が、医師の判断を求めるような特別な配慮が必要かどうかを確認している。そこで、集団保育が可能かどうかなどを医師にご判断いただいたうえで、正式に入る保育園を決めていく。そして、その決まりそうな段階で当該保育園に「こういうお子さんが入ることになりそうだ」と連絡が行き、そこで、実際に園として受入れが可能かどうかの判断となる。

○普光院部会長

その流れについては、後半部分は一般的な流れかと思う。

○武田委員

入園を希望するにあたって園見学をする方は多い。その中で、障害の有無にかかわらず、相談を受けるということもないわけではない。正式には、先ほどのような流れで入園が決定するが、ここで「入園にあたって事前に公設公営保育園が相談を受けて」といった書き方をすると、園見学や入園を考えている保護者の行動の幅を狭めてしまうことにならないかという懸念はある。

○普光院部会長

要するに、ここで書きたいのは、民間でも見学の機会などで相談を受けていくことはあるが、公設公営保育園では、入園申請後に書類等を確認し、それが医療的ケア児であったりした場合には、子どもの安全を確保する観点から医療的ケアの内容等を考慮して受入れ先を案内するということかと思う。

○武田委員

この「事前に相談を受けて」という文言はハードルを高くしてしまう気がする。

○普光院部会長

ここでは公設公営保育園のことを書かなくてはならないため、公設公営保育園が、入園申請後に、医療的ケア児を確認するような活動を行っているということを書きたい。

○武田委員

それは分かるが、「事前に相談を受けて」という文言が、医療的ケアが必要な子どもを持つ保護者にとって高いハードルとなってしまふ。安全を確保するための配慮は誰しもがされている。

○笹本委員

イメージとしては、「公設公営保育園は、幼児教育・保育課とともに安全な受入れが可能かどうかを判断する」というイメージかと思う。

○普光院部会長

「医療的ケア児等の入園にあたっては、幼児教育・保育課とともに公設公営保育園が、子どもの安全を確保する観点から障害や医療的ケアの内容、医師との連携体制のほか、保育園等の設備、保育士や看護師の配置状況を考慮して受入れ先を案内する仕組みを検討すること」という感じか。

○武田委員

意味が整理されてよいと思う。

○普光院部会長

次に、この「基幹型ブロック」という用語だが、これを見た人たちに意味が通るのかどうかは非常に気になった。今までは、一般の公設公営保育園と区別するために基幹型保育園と呼んでいたわけだが、いずれ公設公営保育園は全て基幹型保育園になっていくとなると、この呼び方でよいのか。分かりやすくするのであれば、例えば「中学校区ブロック」などの呼び方も考えられる。

○笹本委員

これまででも未就学の現場では「基幹型保育園ブロック」や「基幹型ブロック」と呼んできており、ある程度はその呼び方が各施設に浸透している。ただ、これから先の何十年を考えると、今が変え時なのであれば、これを機に変えてもよいかとは思う。

○武田委員

単純に「ブロック」だけでも意味は通じるように感じる。

○普光院部会長

中学校区をブロックとして捉えて整備をしていくという市の方針が新しく出ていることから、「基幹型ブロック」ではなく「中学校区のブロック」など誰でも分かるような形にした方がよい。点線内の「基幹型ブロック会議」という記載は、実際に現在その称で行われているため、そのままでもよいと思う。

○笹本委員

現場としては、20年かかったが、「会議」と言えば「基幹型ブロック会議」と分かってもらえるように、ある程度定着してきたという実感はある。

○武田委員

「施設整備にあたっては」の箇所について、非常に無理な要求であることは承知しているが、駐車場の整備・確保も記載できるとよいのではないか。せっかく「相談室やベビーカー置場の設置」と記載があるので、たくさんは要らないと思うが、基幹型保育園には駐車場があってもよいのかなと考える。

○普光院部会長

たしかに障害のあるお子さんを連れてくるときなどは必要かと思う。

○笹本委員

基本的には、今後中学校通学区域に1つ整備されることで、徒歩圏内に基幹型保育園があるという形になっていくと思う。しかしながら、先ほど話があったように、障害のある方や妊婦で身体的に辛い方からのニーズがあるということは感じている。

○武田委員

双子の場合などもそうである。実現はしなくても、書いておくことで多少は考慮してもらえるのではという思いはある。

○笹本委員

もし、駐車場を整備していくにしても、障害のある方などの利用に限定していかないと、混乱が生じると思う。今自分が所属している園でも、多い時は同時に20組ほどが地域子育て支援センターに遊びに来ていることもある。その中で、一番家から近い方が車を止めていたりしたら、それは一つの不満の要素にもなるかと思う。使い方は、限定的にしていけないといけないと思うし、20~30台止められるような規模でないと難しいだろうなとも思う。しかし、バリアフリーという観点では、駐車場の必要性はどこかで考えていかなければならないとも感じている。

○普光院部会長

早いもの勝ちになってしまっただけでは意味がない。

○武田委員

それはよくないと思う。場所に限りはあるし、本当に1台か2台だと思うが、それだけでも随分違うかと思う。駐輪場についても同様である。

○普光院部会長

たしかに自転車置場も記載されていない。

○武田委員

書き出してしまうとキリがないと思うが、今自転車もみんな電動などで大きい。

○井上委員

普通の駐輪場では幅が狭くて入らないこともある。障害者用の駐車場は確かにあった方がよいと思うが、普段保育園を利用している方が送迎に使ってしまうとよくないと思う。事前予約制や車イスのお子さんがある方に利用を限定するなど、事前に相談をしたら使えるという場所があると、そういった方々にも行きたいという気持ちが芽生え、よりよいと思う。

○普光院部会長

例えば、「駐車場」を加えた上で、「環境の整備を検討すること」としてはどうか。主張が弱くなってしまうかもしれないが、そういう書き方もあるかと思う。

○事務局

将来的に基幹型保育園は、他の相談機能などと共に中学校に複合化していくイメージを持っている。そのため、学校や他の相談機能との兼ね合いもあり、あまり多くの設備や面積を保育園が使用してしまうことは難しい。

○普光院部会長

近くにコインパーキングなどがあれば、代用できるかもしれない。この部分の記述については、部会長に一任という形でよいか。

○委員

異議なし。

○笹本委員

11ページの最下部に、「地域子育て支援センターが受動的から能動的に子育て世帯に繋がる工夫をする」とあるが、これは「受動的な範囲から能動的な範囲まで」、「今は受動的だが、これからは能動的に」のどちらの意味なのか。後者であれば、「受動的から」は不要かと思う。

○普光院部会長

このことについては、自分も気になった。

○武田委員

受動的や能動的という表現をやめて、「積極的に」という書き方にしてはどうか。

○普光院部会長
よいと思う。

○武田委員
11ページの（2）情報発信・情報提供のところにも「能動的な」という記載がある。

○普光院部会長
ここも「積極的な」の方がよいかもしれない。そして、（4）の「継続的なつながりの構築・維持」について、今子育て支援は、一旦つながったものを継続するということが非常に大事なことになっているが、「アウトリーチの必要性」はむしろ最初のつながりであり、（3）の「子育て世帯とつながる工夫」のところになるのではないかと思う。「疾病などで外出が困難な家庭、対面での相談に抵抗感があるなどの理由で支援につながらない家庭については、早期かつ継続的な関係性を構築する」とあるが、これについても同様である。継続するというのは、その後のことになるので、ここは内容が上手く整理されていないように感じる。これらを（3）に移してしまうと、この項目に書かれている内容がなくなってしまうが、リピーターになってもらう工夫というのは色々されているはずである。

○笹本委員
地域子育て支援センターのコーディネーターは、一度来た方に「いつでも電話してよいよ」ということをよく話している。コーディネーターが言うには、毎回「今日が最後かもしれない」、「もう来てくれないかもしれない」という思いで一生懸命、丁寧に接することが、次また来てくれることにつながるのとことである。また、妊婦さんが来た際には、「産まれたら見せてね」、「赤ちゃんに会わせてね」と伝え、食事の相談があった方には「食べても食べられなくても、もう一回来てね、気になるから私たちも」と伝えている。こういった日々の対応の積み重ねが継続利用につながっていると感じている。

○井上委員
子育てひろばに関して言うと、一度利用すると名札を作ることができ、その名札を預けることができる。次回行った際にはその名札を付けて遊ばせることができる。やはり一度名札を作ると行きやすくなったという印象がある。

○笹本委員
それは今もやっている。初回来てもらったときに好きな名札の枠を選んでもらい、そこに自分で名前を書いて入れる。

○普光院部会長
現在（4）に書かれていることは（3）に入れてしまってよい。オンライン相談サービスの記述についても、「窓口で相談を待つのではなくプッシュ型で」とあるため、初回の相談になるかと思う。「継続的なつながりの構築・維持」となると、コーディネー

ターの方との信頼関係やいつでも相談に来てもらう方法など、継続的なつながりが大切であるということを書けばよい。

○武田委員

ここは、心地よい居場所を作ったり、また来たくなるような受入れ体制を取ったりといったソフト面に言及する箇所かと思う。

○笹本委員

そういう意味では、やはり「顔の見える関係」になると思う。この前会った先生にまた会えるというのは一つの強みだと思う。コーディネーターは各センターに二人ずついるが、やはり最初に話した人を訪ねて来るケースは多い。

○普光院部会長

ここにも「顔の見える関係」と入れてもよいかもしれない。この箇所については、文章構成を緻密にする必要があるため、部会長に一任いただきたい。

○委員

異議なし。

○井上委員

(6)の「人材の確保・育成」について、「高度な支援ニーズ」ももちろん大切だと思うが、「多様化する」という表現も使ってほしい。高度に限らず、色々小さな悩みや対応に苦慮することがあると思う。それはやはり経験を積んだ人でないとサポートができず、悩みを抱えた若い保育士さんなどがいる施設もあるかもしれない。

○武田委員

「高度な」ではなく「多様化する」の方がよいと思う。

○普光院部会長

その方がよいと思う。他に何かご意見等あるか。

○委員

特になし。

○普光院部会長

それでは、これまで審議してきた内容を反映させ、「西東京市公立保育園あり方検討専門部会まとめ」とさせていただく。

(2) 西東京市公立保育園あり方検討専門部会最終報告について

○普光院部会長

次の審議項目「西東京市公立保育園あり方検討専門部会最終報告について」に移る。事務局より説明をお願いしたい。

○事務局

(資料2に沿って説明)

○普光院部会長

資料2についてご意見等はあるか。

○井上委員

先ほどブロックについての話があったが、ここではどういった記載にするのか。「中学校区ごとのブロック(基幹型ブロック)」のように補足を足す方がよいのではないか。

○普光院部会長

内部では「基幹型ブロック」という言葉が流通しているということであったため、「中学校区の基幹型ブロック」のようにすると分かりやすいかと思う。また、諮問の項目が「西東京市子ども家庭センターとの連携」と「支援が必要な子ども・家庭への支援の拡充」という二項目となっているが、3の「アウトリーチの活動を行い、身近な支援機関として機能する」は「西東京市子ども家庭センターとの連携」の本文の具体的な内容になっている。3のような活動を行い、それが子ども家庭センターに連携していることで、子ども家庭センターの活動が地域に繋がる。3が諮問事項ではないような書き方になっているが、諮問事項である1や2とも深く関係していることだと思っている。3も1や2と深く関係していて、特に1の「全ての子どもと子育て家庭を切れ目なく支援する」という活動は具体的には3のような活動なんだということが記載できたらよいと思うが、文章構成がおかしくなってしまうのであればこのままでも問題はないかと思う。

○武田委員

先ほども話があったが、3(2)の「能動的に」は「積極的に」でよいかと思う。最後の「公立保育園が中心となり保育の運営などの課題に取り組む」の「保育の運営」というのは何を指しているのか。

○笹本委員

ネットワークを作り、その地域において安定的に保育を運営するといった意味合いだと思う。

○普光院部会長

「公立保育園が中心となり安定的な保育を実施するための課題解決に取り組む」とすると分かりやすいか。

○武田委員

よいと思う。

○普光院部会長

他にはいかがか。

○委員

特になし。

○普光院部会長

それでは、本日いただいたご意見を踏まえて事務局の方で修正いただき、後日皆様に最終案をお示しの上、部会長として私が確定をさせていただく。確定したものについては、11月12日の子ども子育て審議会で報告をしたいと思うが、よろしいか。

○委員

異議なし。

2 その他

○事務局

本専門部会について、7月1日の第1回会議以来約4か月に渡りご協力いただいたこと、感謝申し上げます。追加のご意見・修正等があれば、11月5日正午までに事務局までお願いしたい。今後については、本日頂いたご意見を反映した「西東京市公立保育園あり方検討専門部会まとめ」と「西東京市公立保育園あり方検討専門部会最終報告」を11月12日の子ども子育て審議会において、部会長からご報告いただく。

○普光院部会長

これをもって第4回子ども子育て審議会西東京市公立保育園あり方検討専門部会を閉会する。

閉会

以上